

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会
2004年度第2回常任幹事会議事録●日時
2004年7月31日(土) 15:00~17:00●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校 521号室●出席者
秋元圭一 [会長]
日野 高 [副会長]
甲斐光省 [副会長]
渡部征明 [常任幹事]
大村政幸 [常任幹事]
小山 弘 [常任幹事]
勝山昌幸 [常任幹事]
角谷祥子 [常任幹事]
高橋北斗 [常任幹事]●委任欠席
西田一成 (→小山氏)
目須田修 (→西田氏)
菊池 満
西谷之男
浜村圭一 (→秋元氏)
松岡和彦 (→秋元氏) : 途中参加
三浦嘉久
川島昭作 (→西田氏)
岸 明美 (→西田氏)
藤原成理
益子直子常任幹事出席者9名
委任状欠席者11名
定足数成立●議事進行
議長・進行/小山 弘
●書記/小山 優子●議題
議題1/
会則検討委員会からの報告と意見交換議題2/
BAIRI賞の報告
注)【BAIRI賞=梅里賞】議題3/
その他

次回日程

議題1/会則検討委員会の報告と意見交換

●第1回検討会(6月24日)の報告

担当の甲斐氏から、検討会の報告として「まず、会則全体を見直すのではなく、急いで変更が必要な箇所を改訂していく事を確認した。第3章 第11条については、会長と常任幹事の任期を長くして常任幹事の選挙は行わない、又は選出方法を変えるかのどちらかにする。第6章の連絡幹事の必要性については意見が割れており、常任幹事を増員してパーティー時などはアルバイトで対応するという「必要ない」案と、今後の活動を充実させていく為に「必要」案。その他に『常任幹事が新しい幹事を推薦・勧誘したり、ホームページに募集欄をのせる』『毎年卒業生から幹事を7名程度選出し、内1名を常任幹事に決める』『連絡幹事のパーティーなどを開催し、そこで同窓会の目的や内容について再認識してもらう』『奨学金制度を同窓会で援助し、対象学生に常任幹事になってもらう』などの意見が上がった」と述べた。

●常任・連絡幹事の現状と意見

ここで、常任・連絡幹事の関係がわかりにくいので再度説明することになった。「(秋元)以前は西田氏、最近では渡部氏が協力してくれそうなる方を人選し、承諾を得て幹事になってもらっている。卒業式で同窓会や幹事の仕事の説明はしているが、役割が明確でないで理解されていない。選挙も『知らない人の中からは選べない』との意見もあり、返事も5割をきっている」「(渡部)委員会をつくって、連絡幹事の人まで絡めるとまとめきれない。積極的に協力してくれる方々で委員会を作れないか。常任と連絡を分ける必要があるかは分からないが、各学年に幹事は必要」「(高橋)連絡幹事を決めるのは卒業式まで待たなくてもいいと思う。あと、幹事の仕事が名簿管理だけではやる気もおきない。自分たちで何か出来るという環境があれば、やる気のある人も出てくるのでは」「(渡部)今のクラスは小グループ化している。いい連絡幹事をたてても全員に行き渡る事はないと思う。卒業前にみんながいる時に、誰が連絡幹事なのかを紹介したり、ホームページの利用でうまく告知したい。グラフィック的に楽しい説明書ができないか」「(大村)3年生になった時点で同窓会を意識してもらうためにホームページを見てもらうように何か工夫するのは?」「(渡部)見てもらうためにも卒業生の作品を載せる、講演会や奨学金授与など、具体的に同窓会が活動していることを説明するなどして、ホームページを魅力的な形にしていけばいい」「(秋元)同窓会の事を意識するのは卒業してしばらくたってからだと思う。クラスでの結びつきが出来ないとそれ以上の大きな結びつきに魅力を感じないのでは。同窓会としては色々な活動を積み重ねてベース部分に力をつけられるかが問題。ホームページや講演会など卒業生との接点作りをサポートしていきたい」「(勝山)最初に名簿を作る時に突然連絡幹事と言われ、その後は何もやる事がなかった」「(渡部)やはり仕事を作らないとだめだと思う。パーティーの時もそうだが常任幹事だけで動いていた。幹事にも声をかけてやってくれるようにしなければ。生徒に幹事になってもらう時も内容の説明がしにくい」

●会則検討についての意見交換

ここで議長が、欠席の西田氏からの会則検討についての意見を読み上げた「1.選挙については毎年連絡幹事が増えていくのはいいが、選挙権は今年からさかのぼって30年にして、古い人はリストから消えていく仕組みにはどうか。2.一般会員の中でやる気のある方のリストを別枠で作成し、一緒に選挙してはどうか。3.同窓会の透明性を保つために任期は長くないほうがいいのか」などの内容だった。さらに「(角谷)最小限にやってはいい事だけを決めて、会長になった人がその時々の方針を決めてはどうか。その方が自分のやりたい方向にみんなを引っ張っていける。今は会則が細かすぎて前に進めない」「(大村)会長の方針については選挙前にやることではないか」「(角谷)それを知らせる為にホームページなども利用してはどうか。リーダーシップは大事だと思う」「(秋元)私は現在会長をやっているが、すべてのリーダーシップをとろうとは思えない。会長に全権限があるのでやってくれと言ってもなかなかやる人はいないと思う。やる人がいても長続きはしない。先輩の方々が会則という道筋をつけておいてくれたのは、人が変わっても継続できる事を積み上げられるようにと、願った形だと思う」「(甲斐)目的をシンプルにわかりやすくすれば色々できるのに、わざわざハードルを高くしている。会員がやりたい事をすみやかに実行できるようなシステムにしたい。卒業前に集めて説明するなど良い案だと思うし、常任・連絡が紛らわしいなら1つにして、その中で連絡担当を決めればいいと思う。選挙での一番の問題は、いきなり送られてきた投票用紙に自分の名前が載っていてマルをつけるという事だと思う」「(秋元)現在幹事になっている方の中にはよくわからず幹事になっている方と、卒業の時に承諾を得た方の2通りいるのでギャップを埋めたい。早い時期に幹事の方に仕事の内容と選挙のやり方を認識してもらい、続けてもらえる意志の確認もしたい」「(渡部)何かをやる時に、今の問題(人手不足など)を洗い出して話し合った方がいい。常任幹事は何人が適正とか、具体的に活動目標が決まっているなら目的別に委員会を起こして人数・期間も決め、連絡幹事に協力してもらえば」「(甲斐)先ほど同期のつながりを大切にという意見があったが、同窓会は同期会ではない。同期でない人がかみ合って良いモノができた方がいいと思う」「(高橋)自分が参加しているのは違う年代の方の意見が聞けるから。ただ、知らない人のリストが送られてきてもマルはつけられない。まず、お互いの顔を知る所から始めればいい。別の話になるがこの会が最終的に何をしたいのかわからない。総会をやりたいのか、上と下をつなげたいのか、管理をしておきたいのか、なにも見えないので賛同する感情もわからない」「(甲斐)基本的には何をやってもいいが会則が足かせになっている。会則で一番気になるのは『第一章・第三条・目的、本会は会員の

相互の親睦を厚くし母校の発展の為に貢献する事を目的とする』ここをもう少し明確に『母校と会員相互の発展の為に』としたい。ここはゆずれない」「(秋元)参加する人にやりたい事や、やっている事を分かってもらい、人が変わっても組織を継続できるような流れを作りたいと思っている。その中で新しい活動ができる集まりにしたい。ただ、連絡幹事をこのままの状態にすることはよくないのではないか。名簿に名前が載っている人に意識付けしていかなければ」「(角谷)仕事がなければ意識付けはできないと思う。やることのない人は無意識化していく一方で、意識だけはしてくれというのは無茶な話」「(秋元)今の幹事にプロフィール公開と継続する意思があるかアンケートをとりたいと思っている。プロフィールが集まればホームページに掲載し、選挙の時に紹介もできる」など、色々な意見が出された。

●選挙について

ここで、来年の選挙についての話題に移った「(甲斐)今の常任幹事に来年もやってもらえるか打診して、了解してもらい数に不足がなければやる必要はないのでは?」「(秋元)その場合は選挙をしないという会則改訂をしなければいけない」「(甲斐)ではしましょう。不足がなければやる必要はない。人員がたりなければ卒業前に先生に選出してもらった人で準常任幹事慰労会などを開き、そこから選出すればいいのではないか」「(秋元)私が一番改訂したい部分は、幹事と常任幹事の選出の仕方と任期の部分」「(日野)任期・選挙・連絡幹事会のあり方を集中的に話し合うべき。まず任期について(3年くらいが妥当だと思う)決めるのが良い。あわせて選挙の事も決めたい。その中で、他にどんな仕事があるのか考えた方がいい。常任幹事の選挙は必要だと思うし、やらないと閉鎖した印象になる」などの意見があった。

●会則変更の決定について

甲斐氏から変更決定は常任幹事会でできるのか?との質問があった。これに対し「(秋元)会則を変えるには常任幹事会で考えた案を幹事会に提示して3/4の賛成を得られなければならない」「(角谷)前回、決まったのは、常任幹事会で3/4の同意を得られればOKではなく、幹事会の3/4の同意と言うことだったのか...それは無理では?」「(日野)無理ではないし、それは幹事会で決めなければいけない。常任幹事は幹事会の意思で選ばれているのに、変える時だけ常任幹事で決めるというのは違う」「(秋元)今までは会則を変えるにも会員の賛同がなければいけなかった所を、少しでもスムーズにするために幹事の賛同という形にした」「(渡部)常任幹事会の中だけだと声の大きい意見ばかり通っておかしな活動になったりするから、幹事会で承認をとるのは必要」などの意見が挙げられ、これに対し「(甲斐)幹事に参加してもらう事になると相当時間がかかる」「(日野)ハガキでもいいと思う」「(甲斐)幹事には途中経過を知らせないでいきなり決をとるのはおかしいのでは?」「(日野)変更する内容と趣旨をお知らせして決をとればいい」と話し合いが続いた為、今後も会則検討委員で話を詰めながら進める事になった。その他に「(高橋)今は連絡幹事に連絡のとれる会員はほとんどいないので、あまり機能していない。最初に何かする仕事という事であればその部分だと思う。また、生徒側から幹事側に連絡を取れる状態にしてほしい」との要望もあった。

議題2 BAIRI賞の報告

鑑賞に行った大村氏からさとうかよ展「ゆめのなかの森の噂」(6月22日~7月3日)について感想が述べられ、その後、BAIRI賞とは何か、また毎年援助していく予定なのかとの質問があった。「(秋元)BAIRI賞は同窓生を対象にした公募展になるが、全体には知られていない。広く一般に伝わり、色々な作品が出て来れば同窓会の活動の趣旨からはずれないと思い、テストケースとして前回の常任幹事会で了承を得た。現状のようなはっきりしない状態で、同窓会に資金援助を頼まれるならば今後は拒否する。同窓会の代表者を入れてもらい、会の進め方や選考までかわれるようにしたい」「(松岡)学校側は今後この賞については全面的に同窓会で運営してほしい様だ」「(渡部)前にアンケートをとったら作品発表の場がほしいと多数の意見があった。作品展をやるきっかけととらえれば良いのではないか」など意見があり、対応については時期を見て検討することにした。

議題3 その他

事務局の小山氏からは「事務局の場所が、保健室から本館の2階に移った」との報告があった。在校生支援委員会の渡部氏からは「学園祭で後援会と作品展をやろうと思っている。誰か紹介してほしい」「(松岡)それは私の方で桂正和氏に頼もうと思っている」「(秋元)渡部氏から出ている長野の講習会ツアーの話があるが、今期中にやるならスケジュールを提示してほしい」「(渡部)次回位に出すようにします。ただ講演会は別チームを作してほしい」「(秋元)別チームを作っても渡部氏を中心になってスタッフを動かす状況にしてください」と述べた。

その他に「(渡部)8月6・7日に故加藤昌範先生の作品を調べる事になった。それによっては学園祭で展示したいと思っている。資料が多く出版という事も考えられるので、今後同窓会にもスタッフ募集の窓口など協力をお願いする可能性がある」と述べた。

最後に「(秋元)幹事に対するアピールについて、私か小山氏にメールを入れてほしい。渡部氏の会員参加企画に期待している。長野ツアーも常任幹事だけでもやってみましょう」「(日野)会則検討やBAIRI賞の事にしても、日程と担当を決めたほうがいい」との意見に対し、BAIRI賞に関して秋元氏が学校側の意見の正式な文書化を松岡氏にお願いし了承。「(渡部)事前にメールで幹事会の議題を募集してほしい」との要望は小山氏が了承した。

次回日程 9月25日(土)15:00~の幹事会日時の確認をして議会は閉会した。